ご自由にお持ちください Take Free

Vol.16 2019年10月号

魚沼市・十日町市・津南町・南魚沼市・湯沢町& 周辺

越後魚沼探訪

雪文化三館をめぐる p2-3

越後魚沼紅葉散策 p4

Thanks to Snow ／ディスカバー越後魚沼

たたなづく越後魚沼の山々

雲海は秋と思い込んでいる人は多いけれど、実は一年中発生していて、秋にはその頻度が高いというだけです。

十日町市の星峠には全国からカメラマンがやって来ます。

この日、雲海の向こう幾重にも折り重なる山々と、さらにその先には越後三山がはっきりと見えました。右から中ノ岳・八海山・越後駒ヶ岳。

酒井　建（本紙編集部）

季節の花

サワフタギ（はいのき科）。沢蓋木。

画・外山康雄

落葉低木。沢の上に生い繁って沢に蓋をするように覆い隠す木、の意。五月頃、小枝の先端に梅花形の白い小花を多数円錐状につけ目を引く。秋には小さな青色の美しい実を結ぶ。材は、薪炭、器具、細工物に使う。

別名ヤニギ、ツベタギ、ニシゴリと呼ばれる。ニシゴリは「錦織の木・にしごりのき」の意。錦を織る絹糸を紫色に染めるのに使用するムラサキ（むらさき科の草本）の染色固着剤として、サワフタギの灰汁を使ったことに因む。

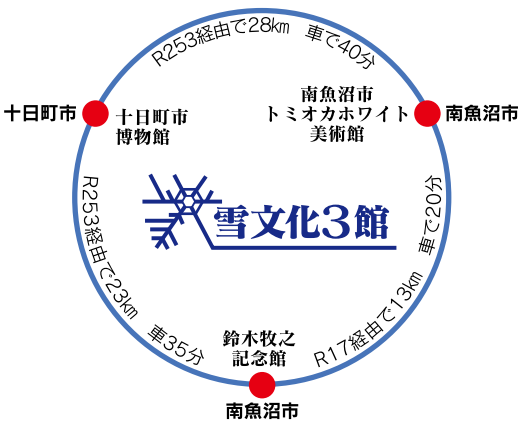
●編集部／株式会社みらい内 〒948-0065 新潟県十日町市高田町3丁目304-2　☎025-752-0350　●メール yukiarite@gmail.com
●発行所／北越印刷株式会社六日町営業所　〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町479番地3 テルエルクボタビル3F　☎025-788-0891／本社：新潟県長岡市南陽2丁目949-8　営業所：東京・新潟・上越・六日町

古きをたずねて 新しきを知る 雪文化三館をめぐる

豪雪地として知られる魚沼地方で、雪を拠りどころにしながら独自の活動を展開する、「南魚沼市トミオカホワイト美術館」「鈴木牧之記念館」「十日町市博物館」は、平成4年に姉妹館として雪文化三館提携を結びました。互いに協力し、新しい雪文化の創造発展に寄与しようと始まったこの交流も今年で27年目を迎えました。

秋の一日、雪の文化を象徴するモノと芸術とヒトの粋を集めた殿堂である雪文化三館をめぐってみませんか。雪の文化に思いを馳せ、文化遺産のすばらしさを再認識するとともに、魚沼地方と雪への理解と愛着が一層深まること間違いなしです。

雪がはぐくんだ　3つの文化を結ぶ カルチャーロード

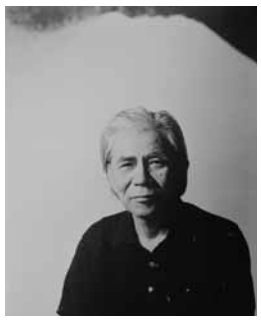


雪文化三館　スタンプラリー

割引券付きで、たいへんお得です。そして、三館すべてのスタンプを集めると記念品を差し上げます！　三館でしかもらえない記念品をぜひ手に入れてください。

雪の美「白の世界」

洋画家・富岡惣一郎は、上越市高田で生まれました。雪深い越後で育った富岡は「雪国人」である自分しか描けない白の世界があると、自ら白油絵の具「トミオカホワイト」を開発し、〝削り取り描き出す〟という独自の描画方法を確立しました。描画には、しなやかさと強靭さを兼ね備えたペインティングナイフが必要でした。そのため、刀鍛冶に特注し大小さまざまなナイフを作りました。そして、あらゆる角度から白の世界を捉えようと、時には上空からセスナやヘリコプターを使用し、スケッチしました。


富岡惣一郎

「花火・長岡A」

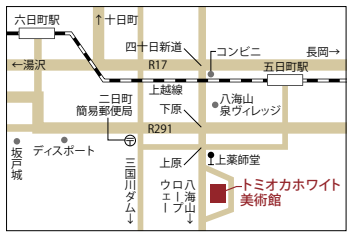
「信濃川・卯の木A」

1960～80年前半の作品においては、白と黒の画家と言われていた富岡ですが、1980年後半の長岡と片貝の花火を描いた作品からは、色彩を多用し光・風・水といったとらえようのない白にも挑戦しました。

南魚沼市トミオカホワイト美術館は、富岡の「雪国で生まれた作品は雪国に還す」という思いから、平成2年秋に八海山の麓に開館しました。雪に魅了された画家・富岡惣一郎の作品を約570点収蔵し、年3回の展示替えを行っています。「白の世界」を描き続けた画家の軌跡をご覧ください。

富岡惣一郎没後25周年

「雪国巡礼」　令和元年11月19日㈫まで
「私は鳥になった」　令和元年11月23日㈯～令和2年3月16日㈪



南魚沼市トミオカホワイト美術館

営 4月～11月午前9時～午後5時、12月～3月午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 毎週水曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）、展示替え期間・イベント開催時
¥ 大人：500円、小・中・高校生：250円

〒949-7124 新潟県南魚沼市上薬師堂142
TEL025-775-3646　FAX025-775-3650
http://www.6bun.jp/white/

Thanks to Snow　A Dragonfly in Heaven

土井ひとみ　*Hitomi Doi*

White Devil is the name people in snow country call snow, and no one can blame them. Sometimes snow falls more than a meter overnight. When it happens, all the common life activities stop and people spend days getting rid of snow around the houses and roads. Snow turns their world into a living hell.

Snow White (not the princess but the color) is the purest color that exists in the world. Snow covers everything and makes everything immaculate. Artist Soichiro Tomioka noticed the beauty of snow when he was very young. For him, snow wasn't a devil at all. What was incredible about him was he tried to make his own snow white. The existing white oil paints were not white enough for him. He knew what snow white really was.

Thus Tomioka White was born. It was the white of snow, that fell in his hometown, that he treasured as a child. Using his snow white, he created many masterpieces and later donated them to his beloved snow country.

When you are tired of snow and can only see the hardship that snow brings, visit the museum and see the artist's view of snow. Tomioka's art will make some room in your heart to admire snow and make you proud of living here. Only snow country residents can perceive Tomioka White is the true color of snow.

夏の終わりにトミオカホワイト美術館を訪れた。八海山の雪を渡った風が最初に吹いてくる場所にある、爽やかな美術館。画家がこだわり抜いて生み出した雪の色を使った絵は、同じように雪国に生まれ育った私の心にすっと入ってくる。どの絵にも雪の浄化作用が働いているようだ。

絵を見終わった後に、展示してあった富岡画伯の言葉が目に焼き付いた。それはまさに私がずっと感じていたことだったから。

「最後に雪国の人々にひとこと申し上げたい。雪の自然界をよく見て下さい。美の宝庫にかこまれていることを考えて下さい。一年中美しい色彩の自然に囲まれている幸せを。」　新潟日報　昭和57年4月17日
富岡惣一郎「創作・トミオカホワイトの世界」より

雪国に暮らす人たちは2種類に分けられる。雪を白い悪魔と嫌う人たちと、雪に感動し、雪の中に暮らすことを楽しむ人たち。どちらを選ぶかは、あなた次第。

越後魚沼フォトライブラリー
フォト酒井
酒井　建
新潟県南魚沼市浦佐5445-4
TEL090-4360-0346

総合企画／広告代理／印刷
デジタルコンテンツ
株式会社 みらい MIRAI INC.
〒948-0065 新潟県十日町市高田町三丁目304-2
TEL025-752-0350　FAX025-752-0351

感動・創造・未来へ
北越印刷株式会社
DRAMATIC PRINTING
六日町営業所
〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町479-3 テルエルクボタビル3F
Tel 025-788-0891 Fax 025-788-0892

北越雪譜の世界

鈴木牧之（ぼくし）は、江戸時代の後期、塩沢の商家に生まれました。雪深い魚沼の暮らしぶりを伝えるために、生涯をかけて『北越雪譜』の出版を諦めませんでした。その牧之の研究や顕彰が盛んに始まったのは、昭和11年に岩波文庫から『北越雪譜』が活字化され全国に広まってからのことです。昭和36年には牧之の菩提寺である長恩寺の経蔵を借りて鈴木牧之記念館が開館しました。

そして、平成元年五月に、県産のスギ材を多用した「せがい造り」である現在の建物が旧塩沢小学校跡地、現在のふれあい広場に開館しました。館内には鈴木牧之が紆余曲折の末に出版した『北越雪譜』はもとより、牧之の遺墨、遺品、文献をはじめ、ユネスコ無形文化遺産で国の重要無形文化財でもある「越後上布」など、昔から連綿と受け継がれてきた雪国の暮らしが展示されています。

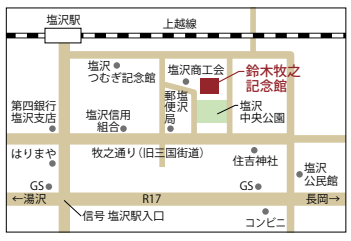
昭和から平成、令和と時代の流れから雪国古来の文化も変化しています。『北越雪譜』は様々な国の言葉に翻訳され、海外にも広まっています。かつての文化を知る手立てとして牧之の業績を活用する機会は今後も増えることでしょう。

『北越雪譜』より　右「雪踏みの図」　左「塚山嶺雪吹図」

鈴木牧之座像

鈴木牧之記念館開館30周年記念

「雪の恩返し－越後上布・米・鈴木牧之と北越雪譜－」
令和元年12月2日(月)まで（期間中無休）



鈴木牧之（ぼくし）記念館

営 午前9時から午後4時30分
休 毎週火曜日（祝日の場合は翌日）年末年始、燻蒸期間休館
¥ 大人：500円、小・中・高校生：250円

〒949-6408 新潟県南魚沼市塩沢1112－2
TEL & FAX 025-782-9860
http://www.6bun.jp/bokushi/

雪と織物と信濃川

十日町地域の生活と文化は、雪と織物と信濃川によって育まれてきました。十日町市博物館の展示は、この三つのテーマで構成されています。数ある展示品の中でも、縄文の華・火焔型土器を多数含む「笹山遺跡出土品」は国宝に指定され、また越後縮関連資料を網羅した「越後縮の紡織用具及び関連資料」、雪国十日町の暮らしぶりを伝える「十日町の積雪期用具」が国の重要有形文化財に指定されています。

この地域が、いわゆる豪雪地であるということは昔も今も変わりありませんが、昭和30年代後半ごろからの高度経済成長期を境に、生活の在り方は大きく変貌しました。

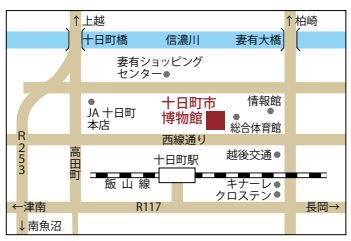
住めば都…。鈴木牧之は雪との苦闘を語る合間合間に、雪談義、雪自慢などをさりげなく織り込んでいます。『北越雪譜』の書中には、往時の人々の暮らしぶりが活き活きと描き出されています。そこに描かれた魚沼の暮らしと、現代に生きる様々な雪国生活の知恵の一端を、「十日町の積雪期用具」などから知ることができます。

積雪期用具（履き物）

積雪期用具（着物類）

国宝　火焔型・王冠型土器

新館開館準備のため、令和元年12月2日(月)～
２年６月初旬まで休館します。



十日町市博物館

営 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 月曜日（祝日の場合翌日）、年末年始（12/27～1/4）
¥ 300円・中学生以下無料

〒948-0072 新潟県十日町市西本町１
TEL025-757-5531　FAX025-757-6998
http://www.tokamachi-museum.jp/
E-mail：museum.10@city.tokamachi.lg.jp

ディスカバー越後魚沼

秋に響く虫たちの鳴き声

夏が終わって秋になるとセミたちの騒がしい合唱が消え、代わりに草むらから多種多様な鳴き声が聞こえてきます。昼夜を問わず響くこの鳴き声の主はコオロギやキリギリスなどのバッタの仲間が中心です。

バッタの仲間が鳴くメカニズムは主にコオロギやキリギリスのように前翅同士を擦り合わせる方法とバッタのように前翅と後脚を擦り合わせる方法の２種類です。その他にもカマドウマのように脚や腹部を樹木の幹や葉などに打ちつけて鳴くものや、後脚で翅を叩いて鳴くものもいます。同じメカニズムで鳴いていても、音程や鳴き声の長さ、リズム等は種によって異なっています。こうした種固有の鳴き声はそれぞれの種のオスが同種のメスを誘引する、またはオス同士の縄張りの主張に役立っていると考えられています。バッタの仲間にはそうした鳴き声を聞くための「耳」も発達しています。コオロギは前脚に、キリギリスは前脚と胸に、バッタは腹部に耳を持ち、音を聞いています。

魚沼地方の里山にはエンマコオロギやシバスズ、スズムシ、ハヤシノウマオイ、ヒメギス、オナガササキリ、ナキイナゴ、クルマバッタ、トノサマバッタ等たくさんの鳴くバッタの仲間が生息しています。里山にはコオロギの仲間が好む森とキリギリスやバッタの仲間の好む草原や河原が広く点在しているため、本格的に調べればまだまだ多くのバッタの仲間が見つかるはずです。秋の夜長に草原や森から聞こえてくる様々な虫の鳴き声にじっくりと耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

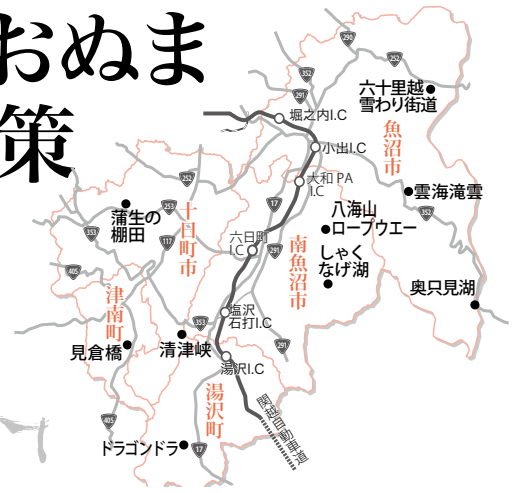
里山科学館「森の学校」キョロロ

ツヅレサセコオロギ

本紙「雪ありて」写真担当
酒井　建が長年撮りためた越後魚沼の四季

ふるさとフォトライブラリー
ご利用お問合せは 本紙編集部（株式会社みらい☎025-752-0350）までお気軽に

越後うおぬま 紅葉散策



南魚沼 南魚沼市 湯沢町
山陵の彩り

1 **八海山ロープウエー**（南魚沼市山口）標高1,147mの山頂駅まで約5分。上信越の山々や快晴の日には佐渡島まで見えます。夏期営業は11月10日まで。問六日町八海山スキー場☎025-775-3311　2 **ドラゴンドラ**（湯沢町三国）日本最長5,481m、約25分の空中散歩。峰づたいにアップダウンが繰り返され迫力満点。紅葉営業10月5日～11月10日（田代ロープウェーは11月4日まで）問苗場スキー場☎025-789-4117　3 **しゃくなげ湖（三国川ダム）／五十沢渓谷**（南魚沼市）湖畔ではオートキャンプ場や多目的グランドをはじめ、しゃくなげ観光センターではダムカレーが楽しめます。三国川ダム上流の十字峡から下津川、黒又川、三国川上流へ続く渓谷美も必見。問しゃくなげ湖畔開発公社☎025-774-2200

「Tunnel of Light」マ・ヤンソン/MADアーキテクツ
Photo by Osamu Nakamura

中魚沼 十日町市 津南町
渓谷の絶景

1 **秋山郷・新潟の橋50選 見倉橋**（津南町見倉）紅葉の名所として知られる秋山郷・中津川渓谷。見倉橋は映画「ゆれる」のロケ地にもなった歩いて渡る木製のつり橋。橋からの眺めは絶景です。問津南町観光協会 ☎025-765-5585　2 **日本三大峡谷　清津峡**（十日町市小出）清津峡を鑑賞するための渓谷トンネルでは、水鏡に映り込む大峡谷が広がる幻想空間が楽しめます。問清津峡渓谷トンネル　☎025-763-4800　3 **蒲生の棚田**（十日町市蒲生）十日町市の松代・松之山地域には山間部の傾斜地に作られた階段状の棚田が多数点在。蒲生の棚田は初冬まで美しい光景を楽しめ、四季を通し写真家を魅了します。問松代・松之山温泉観光案内所☎025-597-3442

1 **雲海滝雲**（魚沼市枝折峠）気象条件が揃った早朝、奥只見湖より発生した雲海が山の稜線を滝のように流れ落ちます。10月の日・祝日はシャトルバス運行、3千円、前日17時までに予約。問(一社)魚沼市観光協会 ☎025-792-7300　2 **ダム湖百選 奥只見湖**（魚沼市）遊覧船上から見る鮮やかな山々と湖面に映る紅葉は格別です。湖上遊覧は11月8日まで運行。問奥只見湖遊覧船☎025-795-2242　3 **六十里越 雪わり街道**（魚沼市国道252号沿線）魚沼市から福島県只見町へと続く峠道「六十里越雪わり街道」は、標高差による色づきの変化を楽しめドライブにおすすめです。JR只見線の車窓から眺める紅葉と渓谷も必見。問(一社)魚沼市観光協会 ☎025-792-7300

北魚沼 魚沼市
錦秋の峠

Information 〈2019年10月–11月〉

食まちうおぬま秋の陣 四季の潤い里山まつり（魚沼市・響きの森公園・小出郷文化会館）10月5日㈯。食ブースで秋の味覚を堪能！木工教室やフリーマーケットなど。環境フェアも同時開催。問食まちうおぬまイベント実行委員会 ☎025-792-1425

魚沼きのこ汁＆新米おにぎりまつり（南魚沼市・八海山ロープウェー山麓駅駐車場）10月4日～11月4日。八海山麓で味わう南魚沼産新米コシヒカリおにぎりと魚沼きのこ汁。10:30～14:30、売切れ次第終了。問NPO法人六日町観光協会☎025-770-1173

生誕地まつり（十日町市・本町通り、駅通り他）10月12日㈯・13日㈰。13日は市中大行進、全国特産市場など。問生誕地まつり実行委員会☎025-757-3345

八色の森市民まつり（南魚沼市・八色の森公園）10月13日㈰。名物・特産品・飲食の模擬店、体験、熱気球や土木フェアなど。問南魚沼市商工観光課☎025-773-6665

こらっしゃい湯沢収穫祭（越後湯沢駅東口バスロータリー）10月20日㈰。地元食材を使った料理、野菜、きのこの売店など。「問こらっしゃい湯沢収穫祭実行委員会（湯沢町商工会内）☎025-784-2522

魚沼酒祭りin越後湯沢（越後湯沢駅東口バスロータリー）10月19日㈯15:00～19:00、20日㈰9:30～15:00。湯沢・南魚沼・魚沼・津南・十日町（松代）・小千谷の地酒の試飲販売会。試飲チケット1,000円（1枚100円×10枚）。問こらっしゃい湯沢収穫祭実行委員会（湯沢町商工会内）☎025-784-2522

八海山大崎口火渡大祭（南魚沼市・八海山尊神社）10月20日㈰。真っ赤な炭の上を信者達が家内安全・無病息災を念じ素足で渡る。問八海山大崎社務所☎025-779-2010

へぎそばの里越後十日町「地そば」まつり（十日町市・越後妻有交流館キナーレ）10月19日㈯・20日㈰。市内外からそば店が集結。小盛りそば1杯400円で食べ比べ。問へぎそばの里越後十日町「地そば」まつり実行委員会事務局☎025-757-2323

塩沢つむぎ語り（南魚沼市・牧之通り）10月1日～11月23日。越後上布、塩沢紬で有名な塩沢地区。牧之通りの商店や民家約20数軒に着物が展示。問射干の会（中島屋）☎090-7244-2353

GEO河岸段丘花火2019（津南町・メイン会場：マウンテンパーク津南他）10月26日㈯19時点火。全長30km、打上げ時間60秒。日本一長くて、日本一短い花火。問Wa☎080-1361-0128

魚沼菊花展　浦佐菊まつり（南魚沼市・普光寺）10月31日～11月10日。約1000鉢の品評会。菊で作る「菊歓迎アーチ」は必見。問大和観光協会☎025-777-3054

お神送り（魚沼市・皇大神宮）11月1日㊎。近隣の神々が皇大神宮に集まり出雲大社に出発する日。露店や「大々神楽奉奏」など。神々が帰ってくる12月1日は「お神迎え」。問堀之内商工会☎025-794-2433

魚沼のひと

降り積もる雪の国 越後魚沼で励む人たち

気の滅入るようなニュースが多い社会の中でも、きらりと光って見える人たちがいる。ここでは、越後魚沼の地でいきいきと活躍するユニークな人たちを紹介する。

雪が清流となり大地を育むように、こうした人たちの活動が豊かに花咲くことを願う。

夢を叶える人を見守りたい ここで出会い、集い、創造して

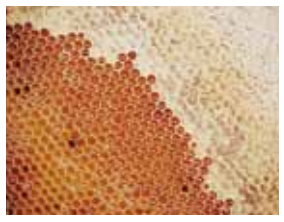
それは大地の芸術祭での出会いがはじまりだった。PV撮影のために自社の倉庫でミュージシャンが歌う姿※1を見て感動したという滝沢梢さん。才能ある人たちの夢を実現させる居場所になればと思い立ち、持て余していた自社倉庫の2階を改装。シェアスペース「asto」を開いた。イベント会場や教室を開くこともでき、つい先月には民間スタートアップ拠点として県からも認定された。

シンプルで清潔感のある内装に古民家家具が溶け込んで、あたたかみを感じる場所になっている。「アーティストでも、企業家でも。様々な人が集まる場所だからこそ、ここで生まれたものはきっと面白いでしょう」と滝沢さんは微笑んだ。

asto (Art Scape of Tokamachi)
十日町市袋町西91番地1　info@asto-t.jp

※1　古川麦〈ふるかわばく〉／小さな海へ

花と蜜蜂と共に暮らす これこそが南魚沼の自然の味



明るい黄色のアカシアから濃密な黒茶色の蕎麦まで。季節ごとの豊富な蜂蜜フレーバーを揃える「さいき養蜂園」を営む斎木勇さん。「巣箱は4、5日で満杯になるから、蜜のやり場に困った蜜蜂たちは働けなくなってしまう。彼らが暮らしやすいように蜜を採り、空巣に戻してあげるのが養蜂家の仕事です」と話す表情には蜜蜂たちへの深い想いがにじみ出ていた。パッケージの水彩画を提供した画家の外山康雄さんによれば、「育てた花を持って来てくれたり、密の採れる花について教えてくれる。行動力のある人だ」

蜜蜂は花の蜜を食べ、花は蜜蜂に花粉を運んでもらう。養蜂家は蜜蜂が暮らしやすい環境を整え、蜜を採る。環境問題が取り沙汰される昨今、斎木さんが育む花と蜜蜂と養蜂家の共存共栄関係は興味深い。

さいき養蜂園
南魚沼市姥島新田385-1
☎080-5473-4889

江戸末期の塩沢の文人、鈴木牧之（ぼくし）は『北越雪譜』を著して雪国の姿を江戸に知らしめました。そこに曰く「雪中に糸となし、雪中に織り、雪水にそそぎ、雪上に晒す。雪ありて縮あり、されば越後縮は雪と人と気力相半ばして、名産の名あり。魚沼郡の雪は縮の親といふべし」

この中から紙名をいただきました。

まさにこのエリアは、織物に限らずあらゆる事柄が「雪ありて」こそ語れる魅力に溢れているのです。

編集子